



# 令和元年 **7**月の大阪森林便り

## 目次

- (1)  本能が求める 自然の魅力
- (2)  木でつくる新しい社会 未来を木でつくろうシンポジウム

## 今月の木の話 割り箸と洋樽

### (1) 本能が求める 自然の魅力

- \*陸地に占める森林の面積は世界全体では30%ですが、日本は67%。
  - \*森の空気に触れ、緑を感じてリフレッシュする＝「Shinrin Yoku (森林浴)」という言葉が、今、米国を始め海外でも浸透しつつあります。
  - \*森の中の溪流に手を浸すと、緊張とリラックスが共に高まる傾向。
- (2019年6月16日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



### (2) 木でつくる新しい社会

## 未来を木でつくろうシンポジウム 進む、木の活用と林業の活性化

木には温もりがあり治癒力がある

\*人工知能や5Gなどのテクノロジーが発達すればするほど、人間の中の動物的な本能はもっと心地よいものを欲するようになるでしょう。

### 林業の生産性向上、需要拡大、高付加価値化は急務

- \*日本の森林は戦後に植栽された苗木が成長し、伐採期を迎えています。
- ・ところが、成長量に見合う量を伐りだせていないのが現状。

### 木材活用に政策が転換 木造高層建築の可能性広がる

\*建築材としての木材は、防火、防災の観点からその利用が制限されてきました。

\*建築基準法の見直しも進み、現在は木材利用の推進へと国の政策も転じています。

\*木造建築はCO<sub>2</sub>固定化で地球温暖化にも役立ちます。

\*守るべき森を不法に伐採することと、伐採と植林の繰り返しの中で育まれてきた木を伐ることの違いをしっかりと理解。

(2019年6月20日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



## 今月の木の話



### 割り箸と洋樽

\*正月に用いる祝箸はやなぎの木。

・家納喜（やなぎ）という縁起文字からきているため。

\*割り箸は、昔はもっぱら杉や松の端材から作っていました。

・海外製品が主流となりました。

\*柳は水分を吸収するところから洩れがなく柳樽がありました。

\*かつて生ビールは独特の斑入り樽にに入れ、ビヤホールに配送されていました。

\*ウイスキーだけがなんとか樽が使われているのが現状です。

・樽に詰める時のニューモルトウイスキーは、無色透明、アルコール度数は64%前後、貯蔵熟成すると樽材の成分がウイスキーに溶けて徐々にその色を濃くしていきます。

・香りも良くなり、コクと丸味のあるウイスキーに育っていきます。

・洋樽にはとりわけカシワがよいようです。

\*北緯 40 から 50 度にかけてできる広葉樹は、北海道を始め、中国は吉林省のタモ、黒竜江省のナラ、北米のウイコンシン州、オハイオ州、ペンシルバニア州のレッドオーク・ホワイトオーク・アッシュ等、ワシントン州、オレゴン州、東欧諸国等いずれも良質です。

（日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋・引用）

